

空の空、イエスにあるあの実際、神の子たちの出現

聖書：伝 1:2-11, 14. 2:17, 22. 3:11. 12:8. 詩 39:4-6.

エペソ 4:17-21, 24. I ヨハネ 5:20. ローマ 8:19-22

日本語訳者註：英語の「vanity」という言葉は、伝道の書ではおもに「空」（1:2）、エペソ人への手紙では「むなしさ」（4:17）、ローマ人への手紙では「虚無」（8:20）と訳されています。

I. 「空の空、すべては空である」——伝 1:2 後半：

A. 伝道の書第 1 章 2 節から 11 節で、わたしたちは見ますが、この書の主題は空の空です：

1. 伝道の書の中心思想は、日の下では、墮落して神から離れた人生は空の空であるということです——2 節。
2. 伝道の書の内容は、日の下での墮落した人類の腐敗した世にある人生の記述です——エペソ 2:12。
3. 伝道の書におけるソロモンの教えは、腐敗した世にある人生が空であり、風を捕らえるようなものであるということを示しています——伝 1:14。
4. 伝道の書によれば、人の歴史は、その初めから現在に至るまで、空です——12:8。
5. ある事がどれほど良く、卓越し、すばらしく、不思議であっても、それが旧創造のものである限り、それは日の下にある空の空の一部です——1:9, 2:11, 17, 22。
6. 天にあり、「日の下」（1:9）にない新創造だけが、空ではなく実際です——II コリント 5:17. ガラテヤ 6:15. エペソ 4:24。

B. 詩篇第 39 篇 4 節から 6 節で、ダビデは自分の命の無とむなしさを認識しました：

1. この詩篇で、ダビデは神によって、自分が無でむなしと認識する点にまでもたらされました。ダビデは、すべての人がその盛んな時でも全くむなしことを学びました——詩 39:5。
2. わたしたちの状態が罪深く（詩第 38 篇）、わたしたちの状況がむなしと認識することは、キリストのために道を開いて、キリストがわたしたちを十字架につけ、わたしたちの中へと入って、わたしたちを通してご自身を生かし出すことによって、またわたしたちが有機的結合の中で彼と共に生きることによって、わたしたちを置き換えます。これはパウロがガラテヤ第 2 章 20 節で表明しているようにです。

C. 人が神によって創造されたのは、最高の、最も高貴な定められた御旨をもってです。それは、神の神聖な命と性質をもって、神のかたちにおいて神を表現することです——創 1:26：

1. 神の敵、悪魔サタンが入って来て、罪としての彼自身を、神が彼の定められた御旨のために創造した人の中へと注入しました——創 3:1-6. ローマ 5:18. 3:23. I ヨハネ 3:4。
 2. この人の墮落を通して、人と、神が人に管理するように託した全被造物は、虚無 (vanity) に服従させられました (ローマ 8:20-21)。こうして、腐敗した世での人生は空となりました。
 3. わたしたちがこの空を逃れる道は、神に戻り、キリストにある神を、贖い、命、富、享受、快樂、満足とし、わたしたちがなおも神に用いられて、神が人を創造した当初の定められた御旨を成就し、神の永遠のエコノミーを完成することです——伝 12:13-14。
- D. 腐敗した世にある人生は空であり、風を捕らえるようなものですが、わたしたちは神が人の心に永遠を置いたことを認識する必要があります——伝 3:11 :
1. 伝道の書第 3 章 11 節の「永遠」は、「神が植えた、歴代、働いている、一種の目的のある感覚です。日の下では、神以外に、何もこの感覚を満足させることはできません」(The Amplified Bible、詳訳聖書 [英文])。
 2. 神は人をご自身のかたちに創造し、人の中に霊を形づくって、人が神を受け入れ、内容とするようにしました。また、人に神ご自身を追い求める心を与えて、神が人の満足となるようにしました——創 1:26. 2:7. ゼカリヤ 12:1。
 3. 人は神から墮落し、罪がサタンを通して入って来て、人が神を彼の満足のために受け入れることを妨害しましたが、神に対する渴望、神を追い求めることは、なおも人の心の中に残っています——伝 3:11。
 4. 暫時的な事物は決して人を満足させることはできません。永遠の神、すなわちキリストだけが、人の心の深い、目的のある感覚を満足させることができます——参照、II コリント 4:18。

II. エペソ第 4 章 17 節から 21 節と 24 節で、パウロはイエスにあるあの実際を提示しており、それは、わたしたちがもはや思いのむなしさの中を歩かないためです :

- A. エペソ第 4 章 17 節で、パウロは信者たちに、「もはや……異邦人が彼らの思いのむなしさの中を歩くように、歩いてはなりません」と勧めています :
1. 墮落した人類の日常生活の基本的な要素は、思いのむなしさです。
 2. 異邦人、諸国民は、墮落した人であり、彼らの思考はむなしくなりました——ローマ 1:21 :
 - a. 彼らは神もなく、思いのむなしさの中を歩いており、彼らのむなしい思想に制御され支配されています。
 - b. 神の目に、また使徒パウロの目に、この世の人が思うこと、言うこと、行なうことは何であれ、むなしさにすぎません。
 3. 思いのむなしさの中を歩く諸国民は、その心のかたくなさのゆえに、理解することで暗くなっています——エペソ 4:18 :
 - a. 墮落した人の思いがむなしさで満ちるとき、彼らの理解することは、神の事柄において暗くなります——詩 94:11。

b. 墮落した人の心のかたくなさは、理解することでの暗さと、思いのむなしさとの源です——エペソ 4:17-18。

B. エペソ第 4 章 17 節と 21 節には、イエスにあるあの実際と墮落した人の思いのむなしさとの対比があります：

1. 墮落した人の不敬虔な歩みにはむなしさがありますが、イエスの敬虔な生活には実際があります。

2. イエスにあるあの実際は、24 節で述べられている新しい人の「あの実際」です：

a. あの欺き（22 節）は、サタンの人格化であり、あの実際（24 節）は、神の人格化です。あの欺きは悪魔であり、あの実際は神です。

b. 神はあの実際であり、イエスの生活の中で展覧されました——21 節。

3. イエスにあるあの実際とは、四福音書に記録されている、イエスの生活の実際の状態です：

a. イエスの人の生活は、あの実際にしたがっていました。すなわち、神ご自身にしたがっていました——エペソ 4:24。

b. イエスの生活の本質は実際でした。彼の歩みは常に実際の中にありました。

c. 主が彼の人の生活の中で行なったことはすべて、神の表現であり、それゆえ実際でした。

4. イエスのこのような実際にしたがった生活は、信者の生活の模範です——II ヨハネ 1-2, 4 節. III ヨハネ 3-4 節：

a. わたしたちは、キリストを学び、彼の中で教えられて、実際の生活をする必要があります——エペソ 4:20-21. II ヨハネ 1 節. ヨハネ 4:23-24。

b. わたしたちは、キリストのからだの肢体として、イエスにあるあの実際にしたがって、実際の生活をすべきです。それは神を表現する生活です。

C. わたしたちは、イエスにあるあの実際の中で生きることができます。なぜなら、「わたしたちは真実な方の中に……いる」からです——I ヨハネ 5:20：

1. 「真実な方」は、神がわたしたちに対して主観的になることを指しており、客観的な神がわたしたちの生活と経験の中で真実な方となることを指しています。

2. 真実な方の中にいることは、御子イエス・キリストの中にいることです。なぜなら、主イエス、神の御子は、真の神であるからです——20 節。

3. 真実な方は神聖な実際です。真実な方を知るとは、この実際を経験し、享受し、所有することによって、神聖な実際を知ることを意味します。

III. 被造物は虚無に服従させられているので、神の子たちの出現を熱心に待ち望んでいます。「それは被造物自身も、朽ち果てる奴隷状態から自由にされて、神の子供たちの栄光の自由に入る望みがあるからです」——ローマ 8:19-22：

A. サタンが自分自身を罪として人の中へと注入した結果、人と全被造物は朽ち果てる奴隷状態の中へともたらされ、虚無に服従させられました——ローマ 5:12. 8:20：

1. 被造物は虚無 (vanity) と朽ち果てる奴隷状態に服従させられているので、日の下にあるあらゆるものは空 (vanity) なのです——伝 1:2. 12:8。
 2. 現在、被造物は、腐敗と腐朽の法則の下で奴隷とされています。被造物の望みはただ、神の子たちが出現する時に、朽ち果てる奴隷状態から自由にされて、神の子供たちの栄光の自由に入ることです——ローマ 8:20-21。
- B. 被造物は切なる期待 (完全に集中して期待すること) をもって、「神の子たちの出現を熱心に待ち望んでいます」——ローマ 8:19 :
1. 出現とは、以前は覆われ隠されていたものが、明らかにされ出現することです——エペソ 1:17. 3:5. ガラテヤ 1:15-16. 啓 1:1。
 2. 主が再臨される時、わたしたちは栄光化され、体は完全に贖われて、おおいに取り除かれます——ローマ 8:18。
 3. 被造物は、「今に至るまで共にうめき、共に産みの苦しみをして」おり (22節)、神の子たちの出現を待ち望んでいます (19節)。
 4. この出現は、今わたしたちが経ている、明示される過程の完成となります——参照、1:4, フットノート 1。
- C. 全被造物は今は虚無と腐敗の状態の中に拘留されていますが、神は彼の王国をもたらして、現在のこの状態を対処されます——啓 11:15 :
1. 来たるべき王国は、神の栄光の王国となり、神の出現した子たちでおもに構成されています——マタイ 6:10, 13. ローマ 8:19。
 2. 神の栄光は、神の王国と並行し、神の王国の領域の中で表現されます——マタイ 6:10, 13 後半. 詩 145:11-13。
 3. 神は、わたしたちを彼の王国と栄光の中へと入るように召しました——I テサロニケ 2:12 :
 - a. 神の王国は、わたしたちが神聖な支配の下で、神の栄光に入るという展望をもって、神を礼拝し神を享受する領域です——マタイ 6:13 後半。
 - b. 王国は、神がご自身の力を行使する領域であり、それは神がご自身の栄光を表現するためです——啓 5:10, 13。
 - c. 王国の輝きは、御父の栄光が現されるためです——マタイ 5:16。
 4. 神の王国は、神が彼の神聖な行政のために、彼の栄光の中で、彼の権威をもって現れることです。ですから、神の王国に入ることと、神の表現された栄光に入ることは、一つの事として同時に起こります——ヘブル 2:10. マタイ 5:20. I テサロニケ 2:12. II テサロニケ 1:10. 啓 21:9-11. 22:1, 5。
 2. 被造物は、神の王国が来るのを切に期待し、熱心に待ち望んでいます。王国が出現する時、全被造物は自由にされ、出現した神の子たちは虚無 (vanity) から救い出されて、「彼らの父の王国で太陽のように輝く」でしょう——マタイ 13:43。